

大学院工学研究科

博士前期課程

学 生 募 集 要 項

1. 募集人員	P1
2. 大学院工学研究科・博士前期課程の目的	P1
3. アドミッションポリシー	P1
4. カリキュラムポリシー	P1
5. 出願資格	P1
6. 研究分野及び指導教授の志望	P2
7. 出願手続	P2
8. 出願期間及び出願書類の提出先	P3
9. 選考方法・選考日時及び会場	P3
10. 受験上の注意	P5
11. 合格発表	P5
12. 入学手続	P5
13. 入学金・学費・委託会費等 一 覧	P5, 30
14. 奨学金制度	P5, 31
大学院博士前期課程の概要	P7～20
環境共生システム学専攻	
機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	
建築デザイン学専攻	

大学院工学研究科博士前期課程 学 生 募 集 要 項

1. 募 集 人 員

環境共生システム学専攻	15名
機械システム工学専攻	35名
電子情報メディア工学専攻	25名
建築デザイン学専攻	25名

2. 大学院工学研究科・博士前期課程の目的

工学研究科は、工学に関する精深な学識を究め、技術社会に対応し得る実工学的研究をすすめ、もって社会に寄与することを目的とする。

2. 工学研究科博士前期課程は、広い視野に立って工学における先進的かつ実践的な学識および能力を授け、高い専門性と研究能力を有する創造的職業人を養成することを目的とする。

3. アドミッションポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程は、「実工学」の理念のもと、主体的に研究・開発計画を立案し、推進できる能力と素養を有する人物を求めます。研究・開発を進めるために必要な工学の基礎を修得し、高い倫理観をもって目標を達成するために継続して努力できる意欲・姿勢を重視します。

4. カリキュラムポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程では、これから益々多様化する社会において、変化し続ける科学技術に順応できるよう、堅実な基礎の上で柔軟に思考し、新しい価値を創出できる技術者を養成するための教育課程を用意しています。

1 年次には、専門領域毎に配置された選択科目の他に、必修科目として各専攻の特性に合わせて、主体的に学修を進める「演習科目」を配置しています。演習科目では、コミュニケーション能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを育みます。

2 年次においては、それまでに修得した知識・技能を生かし、主体的に研究・開発を進め、設定した目標を達成し、修士論文や修士設計を完成させます。

5. 出 願 資 格

一般入学試験

以下のいずれかに該当する者。

- ① 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者及び卒業見込みの者。
- ② 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者。
- ③ 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者及び修了見込みの者。
- ④ 文部科学大臣の指定した者。
- ⑤ 本学学部 3 年次在学中で本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。
- ※⑥ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和 5 年 4 月 1 日現在で 22 歳に達している者。
- ※⑦ 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。

※出願資格⑥⑦に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課大学院入試係までお問合せください。

社会人特別選抜

以下のいずれかに該当し、入学時に 2 年以上の社会経験を有する者。

- ① 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者。
- ② 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者。
- ③ 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者。
- ④ 文部科学大臣の指定した者。

※⑤ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 5 年 4 月 1 日現在で 22 歳に達している者。

※出願資格⑤に該当する者は、出願前に入学資格審査を要します。出願開始 1 ヶ月前までに教務課大学院入試係までお問い合わせください。

令和 4 年秋季入学（9 月入学）

前頁の出願資格について

一般入学試験

- ①③の卒業・修了見込み者については、令和 4 年 9 月までに卒業・修了見込みの者。
- ⑥については、令和 4 年 9 月 21 日現在で 22 歳に達している者。

社会人特別選抜

- ⑤については、令和 4 年 9 月 21 日現在で 22 歳に達している者。

6. 研究分野及び指導教授の志望

応募者は事前に志望する指導教授と面談を行い、研究分野及び研究内容等を確認の上、予定指導教授の承諾を得る。

7. 出 願 手 続

志願者は、次の出願書類を一括して、出願場所の教務課へ提出してください。（郵送可）
受験票が届かない場合は大学院入試係へお問い合わせください。

- | | |
|-----------------------------|---|
| (1) 入 学 検 定 料 | <p>30,000 円</p> <p>入学検定料は、手数料を添え金融機関からの振込みにより納入してください。同時に、入学願書の指定箇所（4 か所）に金融機関の収納印を受けてください。</p> <p>※都市銀行・地方銀行・信託銀行・信用金庫などの金融機関から振込むことができます。</p> <p>※納入した検定料は、いかなる理由があっても返還しません。</p> |
| (2) 入 学 願 書
（本学所定の用紙） | <p>イ. 金融機関より入学検定料の収納印を受けたもの。</p> <p>ロ. 志望する研究指導教授の承諾を得ること。</p> <p>ハ. 出願資格に記載されている一般入学試験⑥、⑦、社会人特別選抜⑤に該当する者は入学資格審査が必要です。</p> <p>資格審査欄に志望する専攻の押印を受けること。</p> |
| (3) 写 真 | <p>裏面に氏名を明記し、入学願書に貼ってください。</p> <p>（最近 3 か月以内に撮影した正面上半身・脱帽で明瞭なもの。</p> <p>大きさは、縦 4 cm × 横 3 cm、枠なし、白黒・カラー共に可）</p> |
| (4) 学習状況・研究計画の概要 | （一般入学試験による出願の場合に提出してください。本学所定の用紙） |
| (5) 研 究 計 画 書 | （社会人特別選抜による出願の場合に提出してください。様式任意） |
| (6) 成 績 証 明 書 | 出身大学が作成し、厳封したもの。 |
| (7) 卒業（見込）証明書 | 出身大学が発行したもの。 |
| (8) 健 康 診 断 書 | <p>最近 3 か月以内に医療機関で証明を受けたもの。</p> <p>（注）本学健康管理センター発行の健康診断書については可。</p> |
| (9) 受験票在中封筒 | |
| (10) 宛名ラベル 1 枚
（本学所定の用紙） | 宛先を明記してください。合格通知または諸事項についての連絡・通知が必要となった場合に使用します。 |

(注) 本国より直接出願する留学生は、日本国内の連絡可能な住所を記入してください。

- (1) 外国人留学生は下記の書類を提出してください。
- * 在留カード又は在留資格を証明する書類
 - * 残高証明（金融機関の預金残高を証明するもの）
 - * その他 事前に、[10. 入学手続] の項を確認してください。

8. 出願期間及び出願書類提出先

- (1) 出願期間：締切日必着
- 令和4年秋季入学（9月入学）
出願期間 令和4年7月20日(水)～令和4年8月1日(月)
- 令和5年春季入学（4月入学）
出願期間 <一次募集> 令和4年9月28日(水)～令和4年10月3日(月)
<二次募集> 令和5年2月8日(水)～令和5年2月15日(水)
- ※春季入学二次募集は、一次募集で欠員が出た場合に実施します。
郵送の場合も上記締切日までに必着のこと。

- (2) 出願書類提出先

日本工業大学 教務課大学院入試係

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4丁目1番地

☎0480（34）4111（代表）

9. 選考方法・選考日時及び会場

一般入学試験

入学の選考は、筆答試験・面接試験の結果と書類審査により判定します。

- (イ) 筆答試験・面接日時

令和4年秋季入学（9月入学） 令和4年8月19日(金)

令和5年春季入学（4月入学） <一次募集> 令和4年10月6日(木)
<二次募集> 令和5年2月22日(水)

ただし、専攻によっては、面接を筆答試験日の翌日に行うことがあります。

- (ロ) 筆答試験時間

	数 学	外 国 語	専 門 科 目
時 間	90分	60分	120分
時 間 割	10:00～11:30	11:45～12:45	13:40～15:40

社会人特別選抜

入学の選考は、書類審査（研究計画書）・面接試験の結果により判定します。

- (イ) 面接日時

令和4年秋季入学（9月入学） 令和4年8月19日(金)

令和5年春季入学（4月入学） <一次募集> 令和4年10月6日(木)
<二次募集> 令和5年2月22日(水)

筆答試験の内容

(イ) 試験科目

専 攻	試 験 科 目		
	数 学	外 国 語	専 門 科 目
環 境 共 生 シ ス テ ム 学 専 攻	出題範囲は線形代数、微分積分学、常微分方程式	英語。但し、外国人留学生は、英語に代えて日本語とすることができる。	下記参照
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	同上	同上	同上
電 子 情 報 メ デ ィ ア 工 学 専 攻	同上	同上	同上
建 築 デ ザ イ ン 学 専 攻	同上	同上	同上

(ロ) 専門試験科目の選択方法

専 攻	専 門 試 験 科 目
環 境 共 生 シ ス テ ム 学 専 攻	材料熱化学、エネルギー・環境工学、ナノ・バイオマテリアル、生物工学、有機発光材料工学、物理化学、高分子化学、電気化学、植物分子機能学、電子材料、分子触媒化学 上記より1科目選択してください
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	材料力学、機械力学、熱力学、機械工作、流体力学、機械材料、制御工学、設計工学、マイクロ・ナノ、メカトロニクス 上記より1科目選択してください
電 子 情 報 メ デ ィ ア 工 学 専 攻	エレクトロニクス、情報通信技術、マルチメディア 上記より1科目選択してください
建 築 デ ザ イ ン 学 専 攻	建築計画、建築史、建築意匠、建築構造、建築材料、建築環境工学 上記より1科目選択してください

- (1) 電卓、関数電卓の使用は原則不可ですが、専門試験科目によっては許可する場合があります。電卓、関数電卓の使用を許可する受験生には個別に連絡します。
- (2) 外国語の辞書を持参してください。辞書使用の可・不可については当日指示します。
- (3) 出身学科及び成績証明書により専門試験科目の一部を免除することがあります。
- (4) 面接試験についての詳細は試験当日に指示します。

注 意

携帯可とされる辞書は、一般的な書籍を示します。
電子辞書、電子手帳、その他電子機能付物品の持ち込みは認めません。

試験会場

日本工業大学 埼玉キャンパス

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4丁目1番地

所在地・交通機関等については、裏表紙参照。

10. 受験上の注意

- (1) 受験生は試験当日、教務課で受験会場を確認のうえ、午前 9 時 50 分までに入室してください。
なお、10 時 30 分以降の試験会場への入室は認めません。
ただし、交通機関の遅れ等、やむを得ない事情によって遅刻した場合は、大学院入試係に申し出てください。
- (2) 受験票を紛失した場合は、大学院入試係に申し出て、指示を受けてください。
- (3) 筆記用具（ペン・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆・消しゴム等）を持参のこと。
- (4) 多機能（計算機能、英語辞典、漢字辞典等）付きの時計等の持込みは禁止します。
また、アラーム付きの時計は、機能を解除してください。
- (5) 携帯電話等の電源は OFF にしてください。

11. 合格発表

合格発表は次のとおり行います。

- (1) 下記の日時に合格者の受験番号を本学内（1 号館 1 階教務課前掲示板）に掲示します。
- (2) 合格発表は掲示によるものとし、電話等による可否に関する問い合わせには一切応じません。
- (3) 合格者には、合格通知を各個人宛（出願時に提出した「宛名ラベル」の宛先）に速達で郵送します。

日 時	令和 4 年秋入学（9 月入学）	令和 4 年 8 月 22 日(月)
	令和 5 年春入学（4 月入学）	＜一次募集＞令和 4 年 10 月 21 日(金) ＜二次募集＞令和 5 年 3 月 3 日(金)

12. 入学手続

- (1) 入学手続期間（締切日必着）
令和 4 年秋入学（9 月入学）合格発表日～令和 4 年 9 月 1 日(休)まで

令和 5 年春入学（4 月入学）＜一次募集＞合格発表日～令和 5 年 1 月 30 日(月)まで
＜二次募集＞合格発表日～令和 5 年 3 月 8 日(休)まで
- (2) 入学手続方法
合格者に通知する「入学の手引き」に従い、学費等を金融機関から振り込み後、入学手続書類を上記の入学手続期間内に提出してください。

外国人留学生は下記の書類を別途提出して下さい。
* 保証人（日本在住の方）の住民票

13. 入学金・学費・委託会費等一覧表

巻末共通事項 P 30 を参照してください。

14. 奨学金制度

巻末共通事項 P 31 を参照してください。

大学院工学研究科 博士前期課程の概要

環境共生システム学専攻……………P7～9

機械システム工学専攻……………P10～12

電子情報メディア工学専攻……………P13～16

建築デザイン学専攻……………P17～20

博士前期課程の概要

環境共生システム学専攻

目的・目標

21 世紀の産業では、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みが進み、それを担う技術は、より一層、環境や社会への責任を果たすものでなければなりません。環境共生システム学専攻では、環境と社会の高い次元での共生を目指し、応用化学とバイオテクノロジーをベースにした「物質デザイン」、「材料・環境科学」、「生物工学」の 3 つの専門領域を中心に、教育研究活動を展開し、専門知識の融合力、新規技術の創造力をもつ研究者・技術者を養成します。

アドミッションポリシー

環境共生システム工学専攻は、「物質デザイン」「材料・環境科学」「生物工学」の 3 つの専門領域に高い関心と興味を持ち、既存の専門分野の枠組みを超えて、新しい技術やシステムの創出に挑戦し、技術開発の最前線で活躍できる研究者・技術者を目指す諸君を受け入れます。

カリキュラムポリシー

環境共生システム学専攻では、新たな物質をデザインし、地球環境の保全や人類の繁栄に役立つ実用的なデバイスへと応用する「物質デザイン」、環境・エネルギーという観点から材料/資源を包括的に捉え、技術革新に繋がる研究を目指す「材料・環境科学」、生き物のもつ素晴らしい能力や機能を解明し、実社会で役立つ新技術へと応用する「生物工学」の 3 つの分野を中心に、カリキュラムを整備しています。

- (1) 専門分野の基礎的素養を身につけるため、「物質デザイン系」「材料・環境科学系」「生物工学系」の 3 つの科目区分の専門講義科目を用意しています。
- (2) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論 1・2」を配置しています。
- (3) 「特別演習」「特別研究」において 1 年次から本格的な研究に取り組み、学位論文を執筆します。

環境共生システム学専攻授業科目

学科目区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員	
			専 門 力	人 間 力	1年		2年			
					春	秋	春	秋		
物質デザイン	バ イ オ マ テ リ ア ル 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	伴 雅人
	メ デ ィ カ ル エ ン ジ ニ ア リ ン グ 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	伴 雅人
	量 子 化 学 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学)	大澤 正久
	光 化 学 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学)	大澤 正久
	物 理 化 学 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学)	池添 泰弘
	物 理 化 学 演 習	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	池添 泰弘
	分 子 触 媒 化 学 特 論 I	2	◎			2			准教授 博士(工学)	小池 隆司
	分 子 触 媒 化 学 特 論 II	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	小池 隆司
材料・環境科学	エ ネ ル ギ ー ・ 環 境 シ ス テ ム 特 論	2	◎	○	2				教 授 工学博士	八木田 浩史
	環 境 学 特 論	2	◎	○		2			教 授 工学博士	八木田 浩史
	材 料 循 環 工 学 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学)	内田 祐一
	材 料 循 環 工 学 演 習	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	内田 祐一
	電 子 ・ 光 材 料 学 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学)	飯塚 完司
	電 子 ・ 光 材 料 学 演 習	2	◎			2			教 授 博士(工学)	飯塚 完司
	表 面 物 理 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	白木 將
	表 面 分 析 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	白木 將
生物工学	ナ ノ ・ バ イ オ シ ス テ ム 特 論	2	◎		2				教 授 博士(理学)	佐野 健一
	ナ ノ ・ バ イ オ シ ス テ ム 演 習	2	◎		2				教 授 博士(理学)	佐野 健一
	分 子 組 織 化 学 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	新倉 謙一
	ナ ノ 材 料 機 能 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	新倉 謙一
	植 物 分 子 機 能 学 特 論 I	2	◎	○	2				教 授 博士(理学)	芳賀 健
	植 物 分 子 機 能 学 特 論 II	2	◎	○		2			教 授 博士(理学)	芳賀 健
生物資源工学	タ ン パ ク 質 工 学 特 論	2				2			【休講】	
	資 源 循 環 プ ロ セ ス 工 学 特 論	2			2				【休講】	
	材 料 熱 力 学 特 論	2				2			【休講】	
	材 料 電 磁 気 学 特 論	2				2			【休講】	
	電 子 材 料 学 特 論	2				2			【休講】	
機械エネルギーシステム	環 境 熱 工 学 特 論	2			2				【休講】	
	自 然 エ ネ ル ギ ー 特 論	2				2			【休講】	
	交 通 現 象 解 析 特 論	2			2				【休講】	
	交 通 工 学 特 論	2				2			【休講】	
	機 能 性 材 料 特 論	2			2				【休講】	
	材 料 プ ロ セ ス 工 学 特 論	2				2			【休講】	
	機 能 性 流 体 工 学 特 論	2			2				【休講】	
	応 用 数 理 工 学 特 論	2				2			【休講】	
演習科目	特 別 演 習 I	2	◎	◎	2				八木田 浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
	特 別 演 習 II	2	◎	◎		2			八木田 浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
研究科目	特 別 研 究 I	4	◎	◎			12		八木田 浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
	特 別 研 究 II	4	◎	◎				12	八木田 浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、大澤 正久、内田 祐一、白木 將、新倉 謙一、飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司	
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士	辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士	辻村 泰寛
	応 用 数 学 特 論 1	2	○		2				教 授 博士(理学)	衛藤 和文
	応 用 数 学 特 論 2	2	○			2			教 授 博士(理学)	衛藤 和文

《修了要件》

「特別演習Ⅰ・Ⅱ」（４単位）と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（８単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外に授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、８単位を上限として修了要件に算入することができる。

研究指導教授および研究分野

環境共生システム学専攻

令和4年度現在

研究指導教授	研 究 分 野
教 授 八木田 浩史	エネルギーシステム分析、ライフサイクルアセスメント
教 授 伴 雅人	プラズマ化学、ナノ・バイオマテリアル、メディカルエンジニアリング、マイクロ・ナノプラスチック
教 授 大澤 正久	合成化学を主体とした機能性有機材料の開発
教 授 佐野 健一	ナノバイオ工学、生物システム工学、タンパク質工学
教 授 内田 祐一	資源の合理的回収、環境調和型素材製造技術、素材複合化
教 授 白木 将	電気化学、界面科学、全固体電池、薄膜合成
教 授 新倉 謙一	超分子化学を基軸とした機能性ナノ材料の開発、ナノ材料のバイオ応用
教 授 池添 泰弘	ナノバイオテクノロジー、磁気工学、物理化学、自己組織化、表面化学
教 授 飯塚 完司	III-V族化合物半導体薄膜の分子線エピタキシー成長とその評価、ダイヤモンド結晶の物性評価
教 授 芳賀 健	植物分子遺伝学、植物分子生理学
准教授 小池 隆司	光触媒の創製及び新反応開発を基盤とした機能性有機分子の創出

機械システム工学専攻

目的・目標

機械システム工学専攻では、「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」など、ものづくりに必要な分野の技術を基軸として、急速に発展する科学技術に対応する力および優れた技術開発を推進できる能力を身につけます。当該専攻に関連する学術研究と専門科目の修得を通して、多様化する社会的要請に柔軟に対応できる専門知識と実践力を備えた開発技術者および研究者を養成します。

アドミッションポリシー

機械システム工学専攻では、多様化する社会の要請に柔軟に対応する、高度な専門能力と実践力を備えた技術者・研究者を養成します。そのための基礎的学力を有し、ものづくりに対するあつい情熱と意欲にあふれた学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

機械システム工学専攻は、ものづくりに必要な各分野の技術を修得し、プロジェクトリーダーとして活躍できる技術者・研究者の養成を目標に、専門知識の獲得と実践力の養成に重点をおいたカリキュラムを編成しています。

- (1) 1 年次では、ものづくりに必要な専門分野（「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」）を、体系的に学び、多分野にまたがる高度な専門知識を修得します。
- (2) 1 年次の「機械システム工学セミナー」では、研究を遂行するための基礎的なスキルを身につけるとともに、2 年次の「特別研究」では、修士論文に取り組み、これを発表する一連の過程において、分析能力、問題解決能力および発表能力を養成します。
- (3) 最新鋭の設備を備えた機械実工学教育センターでの研究装置の製作、あるいは先端材料技術研究センターでの材料分析により、実践的研究開発能力を養成します。

機械システム工学専攻授業科目

学科目区分	授業科目	単位数	DPへの関与度		週時間数				担当教員
			専門力	人間力	1年		2年		
					春	秋	春	秋	
生産工学	塑性加工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 古閑 伸裕
	機械材料学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 竹内 貞雄
	成形加工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 村田 泰彦
	生産工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 二ノ宮進一
	機能性材料特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 安原 鋭幸
	機械加工学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 神 雅彦
	固体力学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 瀧澤 英男
	新素材プロセス特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 渡部 修一
エネルギー変換工学 計測制御工学	自然エネルギー特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 丹澤 祥晃
	燃焼工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 中野 道王
	制御工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 張 暁友
	流体工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 桑原 拓也
	計測工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 石川貴一郎
	光テクノロジー特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 小崎 美勇
	環境熱工学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 丹澤 祥晃
	応用数理工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 桑原 拓也
メカトロニクス ロボット工学	微細デバイス技術特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 加藤 史仁
	ロボット機構学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 樋口 勝
	実用デジタル制御特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 浦川 禎之
	機能ロボティクス特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 櫛橋 康博
	人間ロボット共生特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 中里 裕一
	数理モデリング特論	2	◎	○		2			教授 Dr. Eng. 鈴木 宏典
	ロボットシステム特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 宮川 豊美
	ロボットビジョン特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 田村 仁
演習科目	機械システム工学セミナーⅠ	2	◎	◎	2				古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	機械システム工学セミナーⅡ	2	◎	◎		2			古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、櫛橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論	1	2	○		2			教授 博士(理学) 衛藤 和文
	応用数学特論	2	2	○			2		教授 博士(理学) 衛藤 和文
休講	CAD/CAM 工学特論	2				2			[休講]
	マイクロ加工学特論	2					2		[休講]
	電子材料学特論	2					2		[休講]

＜修了要件＞

「機械システム工学セミナーⅠ・Ⅱ」（4単位）と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（8単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

＜履修要件＞

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

研究指導教授および研究分野

機械システム工学専攻

令和4年度現在

研究指導教授	研 究 分 野
教 授 古閑 伸裕	塑性加工技術の開発と応用、プレス金型技術開発、塑性加工の理論的および実験的解析
教 授 渡部 修一	各種プラズマプロセスを利用した機能膜の開発
教 授 竹内 貞雄	ダイヤモンド等の炭素系硬質膜の合成とその応用
教 授 村田 泰彦	プラスチック射出成形現象のインプロセス計測、高機能金型の開発
教 授 丹澤 祥晃	自然エネルギー、未利用エネルギーの利用技術
教 授 中里 裕一	ロボット工学、医療福祉工学、マイクロメカニズム
教 授 神 雅彦	超精密切削技術、超音波振動応用加工技術、環境共生加工技術に関する研究
教 授 中野 道王	高効率・低エミッションエンジンシステムの研究、化学反応解析に基づく燃焼現象の解明と応用
教 授 張 暁友	磁気浮上システムおよびその応用
教 授 二ノ宮進一	難加工材料の高精度高能率加工、環境調和型加工、新概念複合工作機械
教 授 樋口 勝	ロボット工学、機構学、設計工学、機械要素、バイオメカニズム、福祉機械工学
教 授 鈴木 宏典	交通予防安全工学、ロボットの自動運転、運転支援技術、自動車のヒューマンファクター
教 授 安原 鋭幸	機械材料、材料加工、マイクロ・ナノ加工、炭素系複合材料
教 授 浦川 禎之	メカトロニクスシステムのモーションコントロール、デジタル制御
教 授 宮川 豊美	ロボット工学、ソフトロボティクス、アクチュエータ、フィールドロボティクス
教 授 瀧澤 英男	多軸応力下での材料試験、材料特性の数値モデル化、非線形有限要素解析、弾塑性力学
准教授 櫛橋 康博	ロボット工学、機能ロボティクス、フィールドロボティクス
准教授 田村 仁	ロボット工学、ロボットビジョン、画像計測、福祉情報機器
准教授 秋元 俊成	ロボット工学、医工学、システム工学、計測工学
准教授 石川貴一朗	移動体計測、大規模 3 次元点群処理、位置推定、防災
准教授 加藤 史仁	微細デバイス、医用システム、微細加工学
准教授 小崎 美勇	光計測やホログラフィなどの光応用技術
准教授 桑原 拓也	流体工学、非熱プラズマ、エネルギー変換、環境保全技術

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電子情報メディア工学専攻は、電気工学、電子工学、およびデータサイエンスを含む情報メディア工学に関連する技術が、互いに関連しながら発展してきたことを踏まえ、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術をもつ、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。

またこれらの学問分野が、たがいに融合した新たな専門領域である「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3本を柱として教育・研究活動を展開します。

アドミッションポリシー

電子情報メディア工学専攻は、「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に高い関心と興味をもち、その専門領域だけに留まることなく、急速な技術の進歩にも臆することなく挑戦する意欲ある学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

電子情報メディア工学専攻に関する基礎的素養を、ひとつの専門領域にとらわれることなく、関連した境界領域的な科目も学べるように配慮し、各専門領域の講義科目を「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3つに分類しています。さらに各専門領域に共通する基本技術、基礎技能、課題発見能力、問題解決能力を身につけ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を育むことを目的に、1年次に必修の演習科目である「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」を設けています。これら演習科目を通じて、知識の有機的な融合と、応用力を養成します。「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、各自の研究を進め、修士論文を作成します。

また、関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を1年次春学期と秋学期に配置しています。

電子情報メディア工学専攻授業科目

学科目区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専 門 力	人 間 力	1年		2年		
					春	秋	春	秋	
エレクトロニクス	先 端 マ テ リ ア ル 特 論	2	◎		2				教 授 工学博士 石川 豊
	デ バ イ ス プ ロ セ ス 特 論	2	◎			2			教 授 工学博士 石川 豊
	電 子 物 性 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 青柳 稔
	半 導 体 物 性 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学) 青柳 稔
	電 子 制 御 工 学 特 論	2			2				休講
	情 報 制 御 シ ス テ ム 特 論	2				2			休講
	ア ナ ログ 集 積 回 路 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 宇賀神 守
	ア ナ ログ 集 積 回 路 応 用 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学) 宇賀神 守
	電 気 電 子 計 測 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 吉田 清
	電 気 接 点 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学) 吉田 清
	電 気 機 器 制 御 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 上野 貴博
	電 気 エ ネ ル ギ ー 工 学 特 論	2	◎			2			教 授 博士(工学) 上野 貴博
	適 応 信 号 処 理 特 論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 木許 雅則
	ビ ジ ネ ス プ ロ セ ス 特 論	2	○	○	2				教 授 博士(工学) 大宮 望
	経 営 情 報 シ ス テ ム 特 論	2	○	○	2				教 授 博士(工学) 大宮 望
	ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 特 論	2	◎		2				准教授 博士(工学) 橋浦 弘明
数 理 最 適 化 特 論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 松浦 隆文	
情報通信技術	情 報 シ ス テ ム 信 頼 性 特 論	2	○	○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	計 算 知 能 工 学 特 論	2	○		2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	情 報 ネットワーク工学特論	2	◎	○	2				教 授 博士(理学) 吉野 秀明
	情 報 シ ス テ ム 性 能 評 価 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(理学) 吉野 秀明
	ソフトコンピューティング特論	2	○		2				教 授 博士(学術) 生駒 哲一
	最 適 フィルタ状態推定特論	2	○			2			教 授 博士(学術) 生駒 哲一
	プ ロ グ ラ ム 意 味 解 析 特 論	2	◎	○		2			准教授 P h . D 神林 靖
	エ ー ジ ェ ン ト 技 術 特 論	2	◎	○	2				准教授 P h . D 神林 靖
	クラウドコンピューティング特論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学) 糸野 文洋
	高 信 頼 ソ フ ト ウ ェ ア 開 発 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学) 糸野 文洋
	無 線 通 信 シ ス テ ム 工 学 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 高瀬 浩史
	ユビキタスネットワーク特論	2	◎			2			教 授 博士(工学) 高瀬 浩史
	論 理 回 路 特 論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 中村 一博
	グ ル ー プ ウ ェ ア 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 勝間田 仁
	電 磁 波 工 学 特 論	2	◎		2				教 授 博士(工学) 竹村 暢康
	移 動 体 通 信 シ ス テ ム 特 論	2	◎			2			准教授 博士(工学) 伊藤 暢彦
感 性 情 報 処 理 特 論	2	○	○		2			准教授 博士(先端科学技術) 高津 洋貴	
マルチメディア	進 化 シ ス テ ム 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学) 山地 秀美
	コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学) 山地 秀美
	マ ル チ メ デ ィ ア 通 信 特 論	2	○	○	2				教 授 博士(情報学) 平栗 健史
	ア ン テ ナ 工 学 特 論	2	○			2			教 授 博士(情報学) 平栗 健史
	教 育 工 学 特 論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 松田 洋
	写 真 メ デ ィ ア 特 論	2	○		2				教 授 石原 次郎
	情 報 検 索 特 論	2	◎		2				教 授 博士(情報理工学) 佐藤 進也
	Web 情 報 処 理 特 論	2	◎			2			教 授 博士(情報理工学) 佐藤 進也
	画 像 認 識 特 論	2	○	○	2				教 授 博士(情報科学) 新井 啓之
	映 像 メ デ ィ ア 解 析 特 論	2	○	○		2			教 授 博士(情報科学) 新井 啓之
	自 律 分 散 シ ス テ ム 特 論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 木村 貴幸
	生 体 情 報 処 理 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(学術) 荒川 俊也
	統 計 的 デ ー タ 解 析 特 論	2	◎			2			教 授 博士(学術) 荒川 俊也
	脳 型 情 報 処 理 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学) 呉本 堯
	ヒューマンマシンインタラクション特論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学) 呉本 堯

学科目区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専 門 力	人 間 力	1年		2年		
					春	秋	春	秋	
演 習 科 目	次 世 代 デ バ イ ス 応 用 セ ミ ナ ー I	2	◎	◎	2				石川 豊、青柳 稔、上野 貴博、新井 啓之、 神林 靖、吉田 清、桑野 文洋、木村 貴幸、 松浦 隆文
	次 世 代 デ バ イ ス 応 用 セ ミ ナ ー II	2	◎	◎		2			
	次 世 代 情 報 技 術 セ ミ ナ ー I	2	◎	◎	2				辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、 生駒 哲一、勝間田 仁、竹村 暢康、木許 雅則、 橋浦 弘明、伊藤 暢彦、高津 洋貴
	次 世 代 情 報 技 術 セ ミ ナ ー II	2	◎	◎		2			
	次 世 代 メ デ ィ ア 開 発 セ ミ ナ ー I	2	◎	◎	2				山地 秀美、高瀬 浩史、平栗 健史、松田 洋、 中村 一博、佐藤 進也、石原 次郎、大宮 望、 荒川 俊也、呉本 堯
	次 世 代 メ デ ィ ア 開 発 セ ミ ナ ー II	2	◎	◎		2			
研 究 科 目	特 別 研 究 I	4	◎	◎			12		石川 豊、辻村 泰寛、 吉野 秀明、宇賀神 守、青柳 稔、吉田 清、 山地 秀美、佐藤 進也、生駒 哲一、上野 貴博、 新井 啓之、神林 靖、桑野 文洋、勝間田 仁、 高瀬 浩史、平栗 健史、竹村 暢康、松田 洋、 中村 一博、木許 雅則、石原 次郎、 木村 貴幸、大宮 望、橋浦 弘明、松浦 隆文、 荒川 俊也、呉本 堯、伊藤 暢彦、高津 洋貴
	特 別 研 究 II	4	◎	◎			12		
共 通 科 目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛
	応 用 数 学 特 論 1	2	○		2				教 授 博士(理学) 衛藤 和文
	応 用 数 学 特 論 2	2	○			2			教 授 博士(理学) 衛藤 和文
《修了要件》 「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」（４単位）か「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」（４単位）若しくは「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」（４単位）のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（８単位）を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。 《履修要件》 オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、８単位を上限として修了要件に算入することができる。									

研究指導教授および研究分野

電子情報メディア工学専攻

令和4年度現在

研究指導教授	研究分野
教授 石川 豊	カーボンナノチューブの成長、カーボンナノチューブの新しい生成方法の開発
教授 青柳 稔	カーボンナノワイヤの成長、自走式ロボットの開発、物理現象を応用した電子計測手法の開発
教授 宇賀神 守	CMOS技術によるアナログ集積回路、回路と回路システム、ワイヤレス通信回路システム
教授 吉野 秀明	IoTシステムのトラフィック制御とシミュレーション評価、ビッグデータ分析による需要予測、実トラフィックデータの機械学習による異常検知
教授 辻村 泰寛	進化的計算、群知能、計算知能化技術、数理計画、最適化問題、オペレーションズ・リサーチ
教授 吉田 清	電気接点(スイッチ、リレー等)のアーカ放電現象と信頼性、直流高電圧大電流の開閉技術の研究
教授 山地 秀美	情報技術を活用した社会貢献と工学教育を結び付けた、新しい工学系大学の在り方についての研究
教授 佐藤 進也	Web情報処理、知能システム、複雑系における情報処理機構のモデル化と応用
教授 生駒 哲一	パーティクルフィルタ、統計的信号処理、知覚情報処理、計算知能システム
教授 上野 貴博	スリップリングシステムの信頼性向上、マイコンを用いたモータ制御の研究
教授 平栗 健史	無線メディア伝送、通信品質、およびアグリ制御工学などに関する研究
教授 高瀬 浩史	センサーや無線通信における符号化や信号処理、センサーネットワークなど、情報理論やワイヤレスネットワークに関する研究
教授 石原 次郎	メディア・インストール制作、情報デザイン、メディア論
教授 新井 啓之	画像・映像認識技術の産業応用、およびメディアインタラクションに関する研究
教授 桑野 文洋	ソフトウェア開発・分析ツール、IoTアプリケーションの設計開発手法、ソフトウェア工学教育に関する研究
教授 勝間田 仁	次世代グループウェアと知的ユーザインタフェースの開発、Semantic Webとユーザモデリングに関する研究
教授 竹村 暢康	無線通信用小型アンテナおよびアレーアンテナ、電磁波エネルギーハーベスティング、無線電力伝送など、アンテナや電波応用に関する研究
教授 大宮 望	情報システム開発における生産性と品質向上に関する研究、テキストマイニングを用いたデータ分析手法の研究
教授 荒川 俊也	自動運転への過信と依存に関するヒューマンファクタ、機械学習・統計科学の実問題への応用(畜産、インフラ管理、医用画像診断等)、防災教育手法研究
教授 呉本 亮	ニューラルネットワークを中心とした脳型情報処理及びその工学的応用に関する研究
准教授 神林 靖	エージェントベースのソフトウェア構成またはマルチエージェントによる社会科学分野を含むシミュレーションによる仮説の検証
准教授 松田 洋	映像メディアシステムの開発と教育工学分野への応用に関する研究
准教授 中村 一博	認識処理回路のVLSIアーキテクチャ、論理回路の設計検証に関する研究
准教授 木許 雅則	音響適応信号処理アルゴリズムとその応用システムの開発、電子透かしを利用したセキュリティシステムに関する研究
准教授 木村 貴幸	組合せ最適化、ニューラルネットワーク、カオス最適化手法、メタヒューリスティック、複雑ネットワーク
准教授 橋浦 弘明	ソフトウェア開発、ソフトウェアモデリング、ソフトウェアセキュリティとその教育に関する研究
准教授 松浦 隆文	数理計画、組合せ最適化、オペレーションズ・リサーチ、メタヒューリスティクスを用いた最適化アルゴリズムに関する研究
准教授 伊藤 暢彦	IoT通信制御、IoT応用システム、機械学習、通信資源割当最適化に関する研究
准教授 高津 洋貴	様々な環境条件におけるヒトの特性(生理・心理・行動)の分析と応用

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築デザイン学専攻は、建築をさまざまな視点から捉え、よりよい建築空間、生活環境ならびに地域環境を、次世代に伝達することのできる建築家、建築技術者および研究者を養成します。この目的を達成するため、実践的教育プログラムを整備するとともに、各学問分野の科目を幅広く提供します。

アドミッションポリシー

建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性を備えようと志す意欲にあふれた人です。このため、建築における実践的な学びに対する意欲や行動力を重視します。

カリキュラムポリシー

本専攻が対象とする専門領域は、以下の4領域です。

- 「設計・計画」：空間デザインの視点で建築からインテリア・家具までの設計とその基礎になる研究、あるいはライフスタイルや地域計画の視点でまちづくりに関する研究や実践的活動に取り組みます。
- 「歴史」：住宅、都市、さらに文化環境の視点から、建築史学およびそれらに基づく保存・再生や復原設計に関する研究やプロジェクトに取り組みます。
- 「構造・材料」：構造力学および構造デザインの視点から、建築物の構造や架構法、ディテール等の技術を研究し、また建築材料の視点から、建築部位や家具の材料性能について研究します。
- 「環境・設備」：環境負荷削減・快適空間創出の視点から、建築・地域および都市の光・水・空気・温熱環境や設備システムについて研究します。

- (1) 1年次に専門の講義科目を数多く設けています。
- (2) 1年次に演習科目「プロジェクト演習」を設け、建築分野における「協働」について、ワークショップ形式をとって実践的にプロジェクトを推進します。空間の提案や設計などを実現する過程で必要となる調査情報の共有や議論、合意形成、検証の技術を身に付けます。
- (3) 一級建築士の受験資格に係る大学院での実務経験のために「インターンシップ科目」を設けています。具体的な建築の設計やプロジェクト等の課題を継続的に体験し、設計および工事管理の実務的な能力を培います。
- (4) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論」を1年次に配置しています。
- (5) 「特別研究」「特別研究（修士設計）」において、入学時から指導教員の下で研究・設計に取り組み、修士論文あるいは修士設計を完成させ、発表します。

建築デザイン学専攻授業科目

学科目区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員	
			専 門 力	人 間 力	1年		2 年			
					春	秋	春	秋		
設計・計画	都 市 建 築 の 設 計	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	小川 次郎
	建 築 空 間 の 構 成 シ ス テ ム	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	足立 真
	集 合 住 宅 計 画 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	佐々木 誠
	地 域 設 計 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	佐々木 誠
	福 祉 生 活 環 境 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	野口 祐子
	福 祉 の ま ち づ くり 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	野口 祐子
	施 設 利 用 行 動 モ デ ル 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	木下 芳郎
	施 設 規 模 ・ 配 置 設 計 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	木下 芳郎
	住 ま い の 民 俗 文 化	2	◎	○	2				【休講】	
	祭 祀 と 儀 礼 の 建 築 空 間	2	◎	○		2			【休講】	
	生 活 環 境 形 成 論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	勝木 祐仁
	福 祉 空 間 設 計 論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	勝木 祐仁
	公 共 空 間 の 設 計	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	吉村 英孝
	空 間 認 知 論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	徐 華
	街 路 空 間 設 計 論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	徐 華
	建 築 の 形 態 と ス ケ ー ル	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	竹内 宏俊
歴史	建 築 設 計 と 構 法	2	◎	○	2				教 授 工学博士	黒津 高行
	建 築 表 現 の 手 法	2	◎	○		2			教 授 工学博士	黒津 高行
	組 積 造 建 築 技 術 史 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	西本 真一
	建 造 技 術 史 と 修 復 設 計 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	西本 真一
	近 代 の 都 市 と 建 築	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	安野 彰
	住 宅 史 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	安野 彰
構造・材料	木 質 構 造 設 計 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	那須 秀行
	鋼 構 造 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	那須 秀行
	シ ェ ル 構 造 設 計 論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	箕輪 健一
	空 間 構 造 特 論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	箕輪 健一
	建 築 材 料 と 人 間 工 学	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	工藤 瑠美
	建 築 設 計 と 材 料 性 能	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	工藤 瑠美
	耐 久 性 診 断 特 論	2	◎	○	2				助 教 博士(工学)	田中 章夫
	コ ン ク リ ー ト 材 料 設 計 論	2	◎	○		2			助 教 博士(工学)	田中 章夫
環境・設備	都 市 環 境 設 計 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	三坂 育正
	暑 熱 適 応 の 空 間 計 画 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	三坂 育正
	建 築 空 気 環 境 特 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	吉野 一
	建 築 環 境 設 計 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	吉野 一
	住 ま い 環 境 設 計 論	2	◎	○	2				教 授 博士(工学)	樋口 佳樹
	建 築 熱 環 境 特 論	2	◎	○		2			教 授 博士(工学)	樋口 佳樹
	昼 光 照 明 設 計 論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学)	伊藤 大輔
	建 築 光 環 境 特 論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学)	伊藤 大輔

学科目区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員	
			専 門 力	人 間 力	1年		2年			
					春	秋	春	秋		
演習科目	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I	2	◎	◎	2				黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫	
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II	2	◎	◎		2				
	建 築 設 計 イン タ ー ン シ ッ プ	4	◎	◎	4					小川 次郎
	建 築 設 計 ス タ ジ オ I	2	◎	◎	2					小川 次郎、足立 真、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、竹内 宏俊
	建 築 設 計 ス タ ジ オ II	2	◎	◎		2				
研究科目	特 別 研 究 I	4	◎	◎			12		黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、吉野 一、安野 彰、樋口 佳樹、木下 芳郎、勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫	
	特 別 研 究 II	4	◎	◎				12		
	特 別 研 究 I (修 士 設 計)	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、竹内 宏俊	
	特 別 研 究 II (修 士 設 計)	4	◎	◎				12		
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教 授 工学博士 辻村 泰寛	
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教 授 工学博士 辻村 泰寛	
	応 用 数 学 特 論 1	2	○		2				教 授 博士(理学) 衛藤 和文	
	応 用 数 学 特 論 2	2	○			2			教 授 博士(理学) 衛藤 和文	

《修了要件》

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」（４単位）か「建築設計スタジオⅠ・Ⅱ」（４単位）若しくは、「建築設計インターンシップ」（４単位）のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」８単位または「特別研究（修士設計）」８単位を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目１８単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目（演習、特別研究を除く）は担当教員の承認を得て履修し、８単位を上限として修了要件に算入することができる。

研究指導教授および研究分野

建築デザイン学専攻

令和4年度現在

研究指導教授	研 究 分 野
教 授 黒津 高行	アジア建築の意匠と建築技術、地域文化資産の保存再生
教 授 小川 次郎	建築設計・意匠、建築および都市の構成形式
教 授 足立 真	建築設計、空間デザイン、空間構成論
教 授 三坂 育正	建築環境工学(熱)、ヒートアイランド対策、暑熱環境適応
教 授 那須 秀行	木質構造、中高層木造に向けた高強度接合部の研究開発 耐力壁の安全性向上、CLT(クロスラミネーテッドティンバー)
教 授 西本 真一	古代エジプト建築史、東南アジア建築技術史、保存修復論
教 授 佐々木 誠	建築計画、集合住宅・住宅地計画、まちづくり、地域計画
教 授 野口 祐子	福祉住環境、福祉のまちづくり
教 授 吉野 一	建築環境工学(空気)、高効率換気・空調システムの開発、CFD シミュレーション
教 授 安野 彰	日本の近代における都市環境・住環境・建築の形成史
教 授 木下 芳郎	建築計画、施設利用行動と規模・配置計画
教 授 樋口 佳樹	環境共生デザイン、室内熱環境シミュレーション 電気情報に基づく住宅ライフログ推計
准教授 勝木 祐仁	生活環境の形成過程、福祉空間設計論
准教授 吉村 英孝	建築意匠設計、建築と都市空間の構成形式
准教授 徐 華	環境行動、空間認知、空間評価
准教授 工藤 瑠美	仕上材料、人間工学
准教授 箕輪 健一	シェル・空間構造、振動制御、形態創生
准教授 伊藤 大輔	建築光環境の評価、昼光照明、照明シミュレーション
准教授 竹内 宏俊	建築設計・計画、建築尺度論
助 教 田中 章夫	建築材料、非破壊診断

博士前期課程 出願書類

1. 博士前期課程入学願書（秋季入学・春季入学）
2. 学習状況、研究計画の概要

学 習 状 況 ・ 研 究 計 画 の 概 要

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程

受験番号	※	氏 名			
出身大学	大学		学部	学科	
			年	月	卒業
卒業論文題名					
* 出身大学院	大学		研究科	専攻	
			年	月	修了
修士論文題名					
現在までの学習状況の概略（現在まで、とくに関心をもって学んできたこと、など）					
今後の研究計画の概要					

注：※印は記入しないこと。

* 印は、他の大学院研究科出身者（および見込者）のみ記入すること。